

# Shimotsuke English Journal (SEJ)

Vol. 9

H28 11.1



今月のキーワード

調査問題の分析と授業改善

今年度も、とちぎっ子学習状況調査（中2対象）が4月に実施されました。各学校でも、調査問題や質問紙調査の分析を通して、授業改善へ向けて対策を立てられていることと思います。

今回は、下野市全体の平均正答率から、「県平均よりも正答率が下回った問題」「総合得点の高低で正答率の幅が大きく開いた問題」を抜粋し、英語授業改善の視点を提案します。【基礎・基本】に関する問題には、小学校で音声として学習した単語も多く含まれています。小学校で学んだことを中学1年生でどのように学習・定着させていくか、改めて学びの連続性について考える機会にしてほしいと思います。

## 「繰り返し学習」と「文脈の中での学習」

県平均よりも正答率が下回った問題より抜粋

●設問4 正しい英文になるように単語を選ぶ問題。

※( )は市の回答率

( 1 ) **These are** ( ) **books.**

1 I (0.4%)    2 my (81.2%)    3 me (4.1%)    4 mine (14.2%)

○確認したい力 【基礎・基本】 文法（人称代名詞の所有格）を理解している。

○考察

- ・単語の意味理解にとどまるのではなく、文脈の中で正しく使用する力を付ける必要がある。特に人称代名詞については、教科書で学習した後も意図的・継続的な学習を繰り返し行い、言語活動の中で使用しながら定着させる必要がある。

○授業改善の視点：Sunshine English Course 1 教科書 Lesson7 (P 68～P76) が関連ページ

### ① 繰り返し学習

☆教科書の例文と似ている文を使い、代名詞の部分空欄にした問題で復習するなど、繰り返し、変化のある学習で理解を図りましょう。また、**mine=my books** と捉える指導ができていたかどうか、**I / my / me / mine** を暗記させる活動になっていなかったか、見直すことも大切です。

### ② 文脈の中での学習

☆教科書にある **This is my sister. She is a high school student. I like her.** のような例文パターンを用いて、「話す」「書く」活動を繰り返し行いましょう。身近な事柄を題材にしながら、生徒が自らの意図を表す英文を作ることによって、自然に語彙も広がり、表現力も高まります。



## 「聞くこと」「話すこと」の活動の工夫



正答率の幅が大きく開いた問題より抜粋（その1）

●設問2（2）（3） 対話文の最後の応答部分に入る表現を選びリスニング問題。

（2）最後の一文 Q: Then, whose book is it? に対する応答

- 1 It's in my house. (13.5%)    2 It's Haruka's. (74.8%)    3 I like it. (5.3%)  
4 It's a book. (6.4%)

（3）最後の一文 Q: Let's do it in my house. に対する応答

- 1 That's good. (49.6%)    2 Me too. (26.6%)    3 Yes, it is. (20.2%)  
4 It's mine. (3.5%)

○確認したい力 【基礎・基本】 相手の質問を聞いて、適切に応答する。

○考察

- ・日常会話の場面を想定した対話文である。聞こえた英語を頭の中で逐語訳するために、内容を理解するまでの時間がかかり、とっさの一言に反応する力が備わっていないことが予想される。英文を聞きながら意味を捉えるためにも、日常から「聞くこと」「話すこと」に関する活動を十分に取り入れる必要がある。
- ・疑問詞 **Whose** の意味理解が図れていない可能性がある。疑問詞 (**What / Where /How** 等) については、日常会話の中で教師が意図的に繰り返し使っていく必要がある。

○授業改善の視点 : **Sunshine English Course 1** 教科書 **Power Up Speaking (P74,84,109)** 等が関連ページ

①スキット（短い対話文）を作り、発表する活動の工夫

☆スキットに自分の考えを入れさせるなど、自由度をもたせましょう。教科書のパターンだけでなく、色々な場面や状況を設定させることで、会話の幅が広がります。

☆スキットを発表する際は英文から目を離し、実際の会話場面を想定して取り組ませましょう。

②音読活動の充実

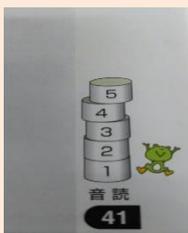
☆声に出して英文を読む活動を増やしましょう。英語を日本語に置き換えずに理解できるまで、音読させましょう。（教科書の見開きページ右下にある音読回数チェック欄の活用も）

③クラスルームイングリッシュの充実

☆教師による英語でのインプットは何よりのリスニング教材になります。授業の中で生徒が「英語を聞く」量を増やしましょう。



5回読んだら1マス塗っていくなどの工夫を！



今回示した授業改善の視点は、一つの例です。生徒の実態に合わせて、各学校での工夫改善をお願いいたします。なお、**無回答率の高かった問題**については、次回以降掲載したいと思います。

文責：学校教育課 稲葉 亜希恵